

尾道市地域公共交通網形成計画(案)に対する意見募集の実施結果について

資料

【募集期間】 平成29年12月26日(火)～平成30年1月26日(金)

【募集結果】 応募者数10人 意見の件数10件

【提出方法】 FAX2人 電子メール1人 郵送4人 持参3人

◎いただいたご意見(概要)と市の考え方

No.	区分	ご意見の概要	市の考え方
1	路線バス	浦崎町においては、高齢化が進行しており、地域の利便性を考慮して、既存の路線を延伸して町内を循環するバス路線を設けることを希望する。	
2	路線バス	浦崎町においては、高齢化、核家族化及び単身世帯化が進行しており、移動手段としてバスの活用が必要となってきた。現在の路線バスは地域の一部を運行しているのみであり、路線の延伸を希望する。	
3	路線バス	浦崎町においては、現在運行しているバス路線を延伸して、町内を循環してもらいたい。高齢者のために小型でステップが低いものが良いと思う。朝、昼及び夕の1日3回運行が良いと思う。将来自家用車が運転できなくなったことを想定すると、現在のバス路線では心配である。	
4	路線バス	浦崎町においては、医療機関、商業施設等が一定の地域に集まっており、自家用車、自転車に乗れない高齢者等はタクシー又は路線バスを利用している。一方路線バスが運行していない地区もあるため、バス路線の延伸を希望する。	バス路線は市域全体で一定のネットワークが構築されていますが、ご指摘のとおり、一部には路線バスが運行していない地域もあります。持続可能な地域公共交通網を形成するためには、将来のまちづくりを見据えつつ、移動ニーズに合った効率的な地域公共交通網を形成していくことが求められています。今後取り組むべき施策については、交通事業者、地域の皆様とも協議し、各自が連携・協働し、適切な役割分担と積極的・主体的な関与のもと、持続可能で、利便性の高い地域公共交通網となるよう頂いた御意見も踏まえながら検討してまいります。
5	路線バス	浦崎町においては、現在の路線バスから浦崎町内を周回する公共交通に移行してはどうか。運行は、百島の島内バスを参考に、地域の自治組織を主体としてはどうか。	
6	航路	浦崎町においては、航走波のため、定期航路の抜港を求める意見もあると聞いている。しかし、定期航路の抜港・減便は地域の衰退につながるため、抜港・減便とならないように配慮してもらいたい。	航路は路線バス同様、島しょ部や沿岸部において、通勤・通学、買い物、通院などの日常生活に必要な地域公共交通であると認識しております。定期航路の運航に関するご意見、ご要望として、市から運航事業者へ情報提供させていただきます。
7	航路	通勤時間帯の利便性を向上させるため、浦崎町から百島町へ渡るための9時台の船便を新設してもらいたい。	
8	全般	高齢者の独り暮らし、老老世帯では、通院、買い物などの日常生活の移動の際にタクシー等の公共交通機関を利用している。また、バス停はあっても、自宅からバス停までの移動距離が長いなど利便性の低い状況にあるため、地域の実情に合った新しい公共交通体系の構築を希望する。	本計画(案)では、地域公共交通のあるべき姿を「持続可能なまちづくりを支え、将来にわたって親しまれる地域公共交通」と定め、その実現のための基本方針として、「多様な交通を組み合わせ、便利で効率的な地域公共交通網をつくる」としています。交通事業者、地域の皆様とも協議し、高齢者、学生等の移動制約者への配慮の視点をもちながら、地域の実情に応じた効率的な移動手段を確保するよう取り組んでまいります。

No.	区分	ご意見の概要	市の考え方
9	全般	<p>公共交通サービスの低下と交通サービスの需要のアンバランスは、大きな問題だと思ふ。</p> <p>私も75歳を超え、夫婦だけの世帯であり、近い将来、自家用車以外の移動手段が必要になると思ふ。地域内を路線バスが走っていても、実際に乗ったことがない人が多いと思ふ。</p> <p>乗り方がわからなければ、移動手段として安心して利用できない。</p> <p>今後、免許返納する時が来た場合、公共交通を安心して利用できるための対策が早期に必要と思ふ。</p>	<p>高齢化が進む中、本市においても運転免許証の返納件数は年々増加傾向にあり、移動手段としての地域公共交通の需要は今以上に高まっていくものと認識しております。一方で、市民アンケート調査の結果、路線バス及び航路を「全く利用しない」と回答した方の割合は半数を超えており、ご指摘のとおり、将来にわたって地域公共交通を維持していくためにも、利用促進・利用意識啓発に取り組んでいく必要があると考えております。今後、高齢者の外出機会の喪失が危惧される中、高齢者も安全・安心に利用できる地域公共交通を確保するよう取り組んでまいります。</p>
10	全般	<p>人が少ないところは、バスの利用者は少なく、その数を増やすことは簡単には出来ないと思ふ。住民自身が地域公共交通を考えていく必要があると思ふ。</p> <p>普段バスに乗らない人は、行先、乗り継ぎがよくわからない。行先や乗り継ぎがわかり易い情報提供が必要と思ふ。その情報が、実際のバス停でわかるような工夫をしてはどうか。</p> <p>バス、船、ともに観光のための移動手段としては少し物足りない。休日の利用が増える取組みを検討してはどうか。</p>	<p>加速度的に進む人口減少、少子高齢化を背景に、移動ニーズに合った効率的な地域公共交通網を形成していくことが求められています。そのためには、交通事業者、地域住民の方とも連携・協働し、必要な施策を展開していく必要があると認識しております。</p> <p>一方で、市民アンケート調査の結果、路線バス及び航路を「全く利用しない」と回答した方の割合は半数を超えており、ご指摘のとおり、将来にわたって地域公共交通を維持していくためにも、利用促進・利用意識啓発に取り組んでいく必要があると考えております。今後も交通事業者と連携して、市民、来訪者・観光客にとってわかりやすい情報提供の充実、利用促進に取り組んでまいります。</p>